

2020年度 研究発表会 協議会資料

徳川による政治の安定

～江戸幕府265年のなぞに迫る～



和歌山大学教育学部附属小学校
6年C組 担任 西川 恭矢

☆小学校社会科の目標

公民としての資質・能力の基礎を育成する

公民的資質を「自らのことば」で定義して、それを授業に生かすという発想を、われわれ社会科教育関係者がどれだけでも持っているかが重要である。（唐木，2016）

では、授業者が考える公民としての資質・能力とは何か・・・？

価値観が多様化し、明確な答えのない社会において、
『多角的な視点から社会的事象を捉え、考えのちがう
他者と調整しながら、自分の考えを再構成できる力』

歴史学習も「公民としての資質・能力の基礎」を育成するための一翼を担っていること



子どもは自らの学習経験（授業）をとおして、社会へのかかわり方を学んでいくこと

歴史学習においても『多角的な視点から社会的（歴史的）事象を捉え、考えのちがう他者と調整しながら、自分の考えを再構成できる力』を育成するような授業を展開していく必要があるのではないか。

単元の学習問題

探究のプロセスをとおして・・・（問題解決学習）

他者との「協働」・教師による「しかけ」によって『歴史的事象を多角的』に捉える

学習問題の解決

☆社会科授業をとおして、目指す子どもの具体



「社会で起こるいろいろな出来事を考えると〇〇が正しい、などと簡単に言うことはできない。なぜなら、一つの社会的事象には様々な人が、様々な立場で、様々な角度からかかわっていて、どの視点から見るかによって、物事はまったく違って見えてくるからだ。だから物事を簡単に判断するのではなく、いろんなことを総合的に判断して、自分の考えがもてるようになりたい。

省察性を働かせる子どもの具体的な姿

- ・わたしは、調べ活動をとおして、～という考えをもっていた。でも、〇〇さんの意見を聴くと～という考えも納得できる。こう考えると、世の中 のことは100%正解というような決まった答えはないのかもしれない。
- ・〇〇さんの～という意見がすごく納得できた。ぼくも今までの生活をふり返ると、～と思うことがあった。昔の人も、同じようなことを思って生活していたのだなと思った。そう考えると今と歴史にもつながりがあると思う。
- ・今回～というテーマでみんなで話し合いをして、いろんなことを考えると、～という立場のことも考える必要があると思った。



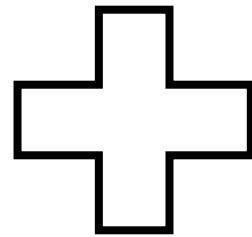
☆どのような「多角的な視点」と子どもを出合わせるのか？

今日の自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることや、遠い祖先の生活が自分たちの生活と深く関わっていることなどを理解できるようにし、自分たちもこれからの歴史の担い手となることや、平和で民主的な国家及び社会を築き上げることについて、考えを深めるようにすることが大切である。（学習指導要領解説 社会 P110）

歴史を学ぶことで、現在の社会を考えることにつながる必要がある

過去にどんな出来事があったかを知る

歴史「を」学ぶ視点



学んだことを今や未来に生かしていく

歴史「から」学ぶ視点

4月当初、子どもがもっていた
歴史学習へのイメージ

この視点が重要！！

・どんな歴史「を」学ぶのか？

☆ 単元名 『徳川による政治の安定～江戸幕府260年のなぞに迫る～』

・江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解する。

(江戸幕府の始まりについては徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利を収め、その後、江戸幕府を開いたことがわかることである。参勤交代や鎖国などの幕府の政策については、大名を親藩、譜代、外様の3つに分けて全国に配置したこと、徳川家光の頃に参勤交代が制度として確立したこと、キリスト教の信仰を禁止し、貿易を統制し渡航を禁止するなど海外との交流を制限する政策を進めたことなどが分かることである。身分制については、武士を中心とする身分制が定着したことがわかるなどである。これらのことを手掛かりに、江戸幕府が政治を行った頃、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。)

*学習指導要領(平成29年度告示)解説 社会科編より

戦いによって、将軍の地位を手に入れた徳川家は、江戸幕府が長く続くよう参勤交代によって武士の力、鎖国によって外国勢力の力、身分制によって民衆の力を抑えることで政治の安定を図った。

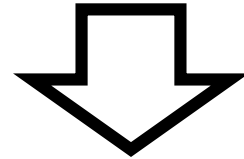
安定を図るための政策を幕府からの立場で考えさせる

Before

様々な制限があった江戸時代は、大変な時代だったんだな・・・（歴史「から」学んでいない）

多角的な立場から捉えさせることで・・・

After



確かに、数々の制限はあったが徳川による支配によって時代が安定したことは間違いない。その結果、今も受け継がれるような町人文化が発達したり、先進国同士が戦争をしている中、江戸が世界一の都市になったりしている。今の価値観だけで江戸時代が幸せではないとは言い切れないかもね。

歴史上の人物たちも何度も国のピンチを迎えては、様々な政策を行ってきた。どんな政策も立場が変われば良いものにも悪いものにもなる。和歌山の偉人でもある吉宗の政策もすべて良いものとは言い切れないのかもしれない。だからこそ、様々な意見を聞いて、自分の考えをもつことが大切なのだ。

様々な立場の人が様々な思いをもって創り上げてきたのが今の日本であるといえそうだ。自分も社会を支える一員として、平和な国際社会の実現を目指して努力を続けていく必要があるのだな・・・

☆ 『多角的な立場』 から江戸時代を捉えさせるための「しかけ」

「江戸幕府による政治の安定」と「町人の文化の発展」をひとつの単元として構成することで、より多角的な立場から歴史的事象を捉えることができるだろう。

- ① 単元の学習問題「どうして江戸幕府は265年も続いたのだろうか？」を設定する
- ② これまでの学びをもとに学習問題に対する予想を立てる
- ③ 江戸幕府と武士との関係について調べる
- ④ 幕府による外国との貿易について調べる
- ⑤ 幕府による民衆への支配について調べる
- ⑥ これまでの学びをもとに江戸幕府の政治をまとめる

赤字の学習を充実させることで、より探究の質が高まる

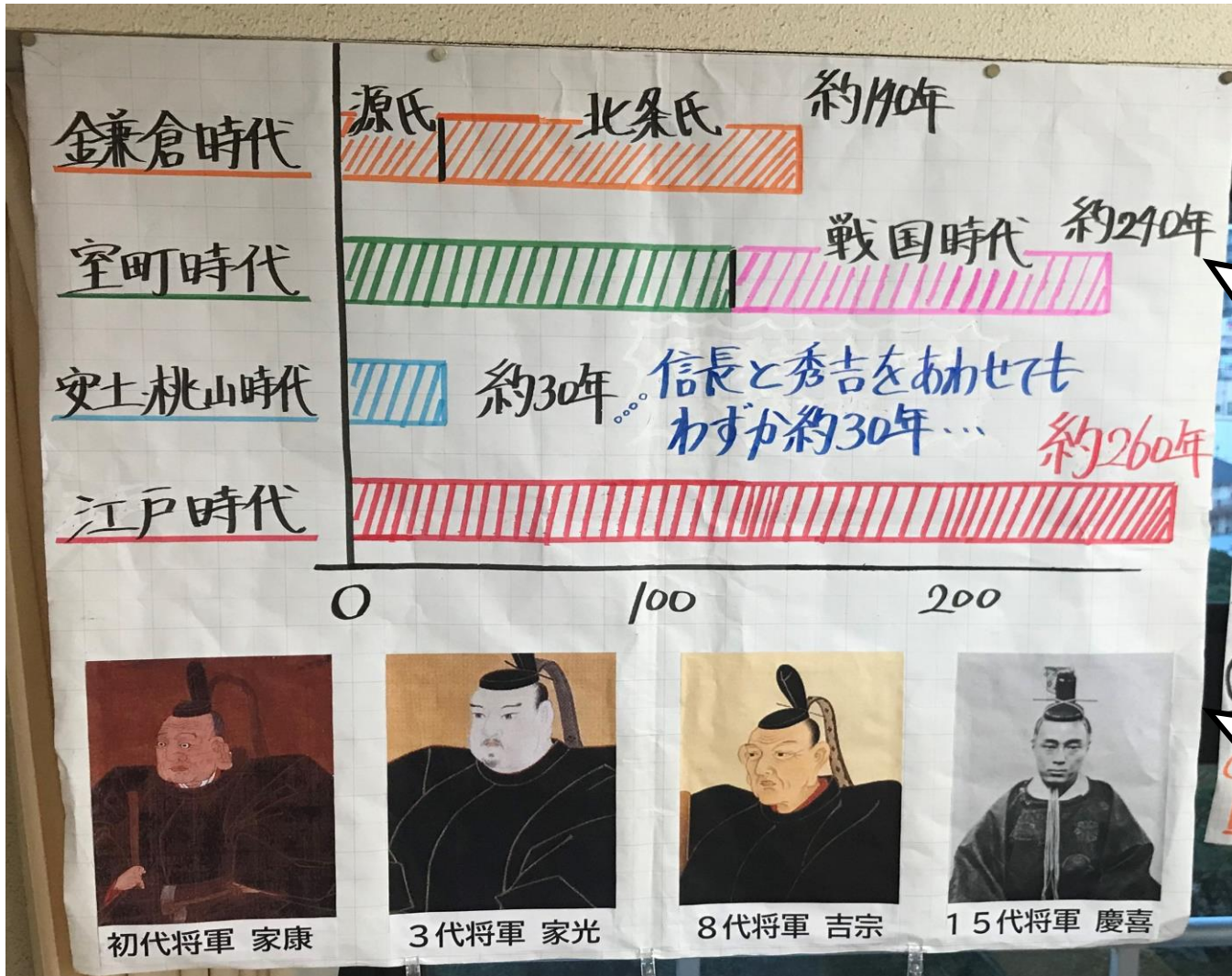
人々の生活や外国とのつながりを制限したから、265年も続いた

それだけ不自由な社会なのに不満をもつ人はいなかったの？

- ⑦ 平安・室町・江戸の文化を比較し、武士の世の中で町人文化が発達した理由について調べる
- ⑧ 町人文化発達の原因についてまとめる
- ⑨ 郷土の偉人である徳川吉宗の功績について調べる
- ⑩ 吉宗と宗春の政治を比較し、吉宗の功績について多角的に判断する（本時）
- ⑪ これまでの学びをもとに江戸幕府の政治をまとめる

◎ 単元を貫く『学習問題』を設定する場面 (1/11)

「え？どうしてそんなに・・・？」 **違いが見える** 資料を提示し、子どもの驚きから学習問題を設定する



ぼくが今日、一番気になったことは、〇〇くんも言ってたけど、やっぱりなぜ江戸幕府がこんなにも長く続いたのかということです。あれだけすごいことをした信長や秀吉でも30年しか続かなかったのに家康は何をしたかがすごく気になります。最後の将軍がカラー写真になっていたから、やっぱり外国の技術を取り入れて幕府を強くしたと思います。

今日から歴史の授業で江戸時代がスタートして、すごく長い時代だから「なんで？」と思って、調べてみたら、ヨーロッパとか中国の歴史の中でも265年も続いた時代はなくて、江戸時代は世界から見て奇跡と書いてあった。そんなすごい時代がなぜできたか知りたい。家康は天才なのかも？(授業後の家庭学習より)

◎学習問題に対する予想を立てる場面（2/11）

これまでの既習事項をもとに、学習問題に対する予想を立てることで「歴史から学ぶ」子どもを育成する



御家人たちと「御恩と奉公」の関係を結ぶことで、幕府と武士のつばがりは、領地を中心に成り立っていく。
（幕府と武士の関係は？）



戦国大名と呼ばれる各地の大名がお互いの力を競い合っていた時代、鉄砲に目をつけた信長はキリスト教を認め、積極的に外国と貿易を行い、天下統一に近づいていく。
（幕府と外国とのつながりは？）



検地をおこない百姓から安定して米をとり、収入を確かなものにした。また、百姓たちが反抗できないように刀や鉄砲などの武器を取り上げる刀狩りを行った。
（幕府による民衆への支配は？）

思いつきではなく、
これまでの学びから予想を立てる

新しい技術をえるために、外国と積極的に貿易をしたと思います。でも、新しい技術もほしいけど、外国に攻められたら困る。江戸幕府はどっちをとったのだろう。私なら外国に攻められないようにすると思いました。また、なぜ秀吉の後つぎに豊臣家の人にならなかったのかもすごく気になってきました。

江戸時代が265年も続いたのは江戸幕府が信長や秀吉の政策を受け継いだからだと思う。また、頼朝がやったみたいに御恩と奉公のようなWinWinな関係もあると思う。WinWinな関係がないとまた、戦国時代のように武士が怒り出すかもしれないからです。でも、みんなそれぞれいろいろな予想をしているから、どれがあっているか調べたいです。

◎これまでの学びをもとにまとめる場面 (6/11)

幕府が行ったそれぞれの政策の共通点を考える活動を通して、個別の知識を複合的に捉えなおす

10/15 江戸幕府の政治と安定(5) *どうしてこれか?*

学習問題 江戸幕府が265年も続いた理由を漢字1字であらわそう!!

信長+秀吉 *わずか30年* *江戸幕府(徳川) 265年も...*

天下統一を目指したけど...

江戸幕府はなぜ265年も続いたのだろう?

たんのてきこと ↓ 共通

江戸幕府(徳川家) ⇒ 大名 外国 民衆

江戸幕府の政治って、すくまとめていく... 漢字1字でも考えさせておもしろい

権力の大きさを?

① 武士との関係
幕府 *制限* → 武士 *大名*
② 外国との関係
貿易 → 利益 財力
③ 民衆との関係
支配 武士 町人 百姓

政治継続できた *治める*
生かす 殺さず
争いを防ぎ 幕府が治める 幸せで世...
争いは少ない *治安* → 平和

各組でこの一字を選んだ理由を話し合おう

(2) 班 (6) 班 (7) 班 (4) 班
江戸幕府の政治を漢字一字で表すと

治 大 多 制

(1) 班 (5) 班 (3) 班
江戸幕府の政治を漢字一字で表すと

策 法 策

ぼくは江戸幕府を一字で表すと「制」だと思った。理由は制度があったから大名の財力を落とせたり、民衆に税をとったりできたからだ。あと、7班の「多」も制度が多いという意味だからなるほどと思った。江戸幕府はまだ途中までしか勉強していないから、最後までやってまた漢字1字を考えたい。

みんなは幕府がつくったきまりをいい意味で言っていたけど(授業での発言という意味)ちがうと思いました。あのたくさんのルールは徳川家がいいようになるためだと思います。なぜなら参勤交代させたのも身分制をつくったのもキリスト教を禁止したのもすべて幕府がくずれないためだからです。

◎ 違う視点から幕府の政治を捉えなおす場面 (7 & 8 / 11)

政治の安定によって、町人文化が発展した事実をもとに、江戸時代を多角的に捉えなおす

平安時代→『貴族』による文化の発達

鎌倉時代→『武士』による文化の発達

江戸時代→『武士』ではなく『町人』による文化の発達



え？どうして？徳川(武士)の世の中のはずなのに…

今まで幕府の政治は、民衆にとっては最悪だと思っていたけど、力をつける民衆もいたと資料に書いてあったから、戦国時代までのように戦いをしている時代ではなくて、戦いがなからこそいいこともあると思いました。力をつけた町人たちは、徳川幕府を倒そうとしなかったのか疑問に思った。

幕府による
政治の安定

生産力UP

力をつける
民衆も…



江戸幕府の政治が続くことで社会が安定して、生産力が高まったり、交通が整備されたりいろんな技術が進んだり、いいこともあったのだと思いました。でも百姓や町人からも差別された人の生活もよくなったのか。それとも変わらなかったのか。それがすごく気になりました。また調べてみたいです。

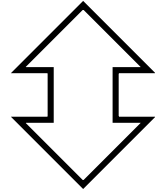
☆学習した内容を子どもの振り返りと共に掲示し，問題解決を充実させる



いつも目にする場所に掲示があることで，興味・関心を高めていく

☆カリキュラム・デザインにより「学びをつなげる」

GoToキャンペーンについて考えよう
CHANGE (総合学習)



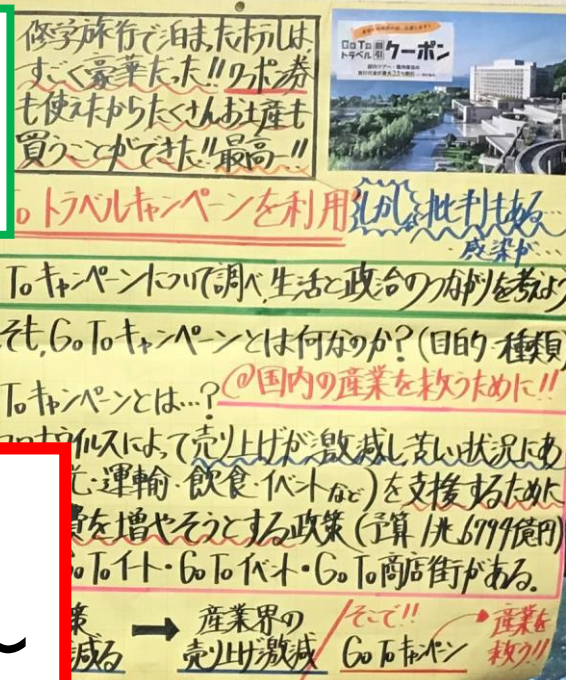
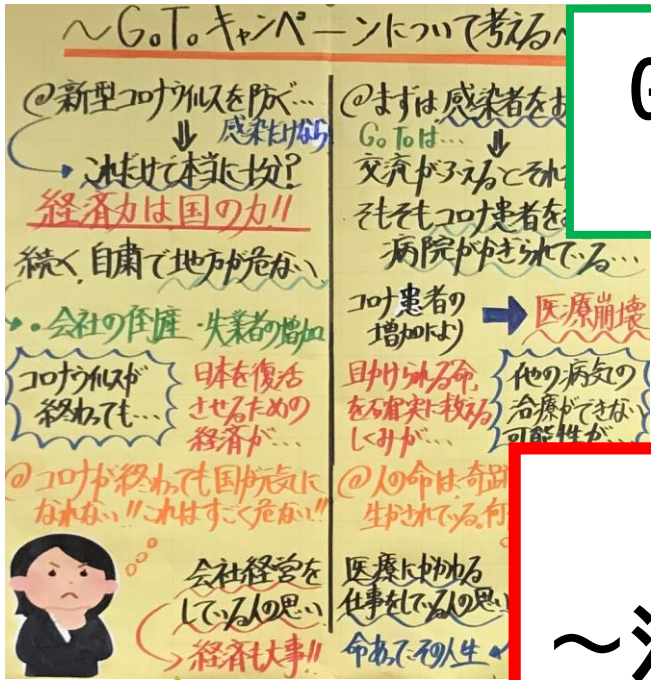
徳川による政治と安定
～江戸幕府265年のなぞに迫る～
(社会科)



伊能忠敬の挑戦 ～地図づくりへの情熱～
(道徳科)



一番大事なものは～立場を明確にして伝え合う～
(国語科)



☆本時の展開と「しかけ」について

しかけ① 前時の学びで得た知識と異なる資料を提示し、「え？どうして？」から学習問題を設定する

自分たちが通う学校の近くに吉宗像があることに興味をもった子どもたちは、前時で「吉宗像があることは知っているけど、何をした人かは知らない。銅像があるということは、すごいことをしたということかな？」という疑問から『なぜ、吉宗の銅像があるのだろう？吉宗の功績について調べよう。』という学習問題を設定し、吉宗について調べ学習を行っている。本時は、その前時における子どもたちのまとめから授業をスタートさせた。前時までの学習で吉宗を好意的に捉える子どもに対して、その政治を批判した尾張藩主徳川宗春の存在を提示することで、「教師の教えたい」を「子どもの学びたい」に変容できると考えた。

The whiteboard content includes:

- 政治と安定(8)**: 吉宗は、どんなリーダーか？ 自分さびくできるリーダー 幕府の中心をたてたリーダー 新しいことをしたリーダー → 吉宗とは、すぐれたリーダー 様か？
- 学習問題**: 徳川吉宗は、本当にすぐれたリーダーといえるのか？
- Scale Chart**: A horizontal scale from 'No' to 'Yes' with numbers 1-27. Above the scale are class numbers: 2班 (5, 25, 20), 4班 (9, 13, 4), 1班 (24, 8, 23, 17, 18), 7班 (6, 7, 1, 14, 26), 3班 (2, 16, 22, 15, 12), 6班 (9, 25, 18, 14, 22, 15, 20, 16), 5班 (24, 8, 23, 17, 18, 11), 1班 (6, 7, 1, 14, 26, 19, 27), 3班 (2, 16, 22, 15, 12, 10, 21).
- Concepts**: 民衆の不满 (People's dissatisfaction), 最低限のことをして... (Doing the minimum...), 幕府を守るか? リーダーとしての役割 (Should we protect the shogunate? Role as a leader), 民衆も生活 (People also live).
- Right Side List**:
 - 江戸幕府 約260年 江戸幕府
 - 1600年 関原の戦い 徳川家康が幕府を開く
 - 1603年 徳川家康が江戸幕府を開く
 - 1605年 家康が将軍職を正式に持つ
 - 1615年 豊臣氏を打ち倒す 武家諸法度を定める
 - 1635年 日本への海外貿易を禁止
 - 1674年 島原・長門の乱を鎮圧
 - 1691年 全国国が完成
 - 1701年 徳川家康の墓を築く 徳川家康の文化を継承する!!
 - 1704年 天明の飢饉 徳川幕府の政治
 - 1716年 徳川家康の孫が将軍になる 幕府が弱体化!!
 - 1750年 各地で幕府の家督争い
 - 1774年 老中が自らで幕府の政治を出版
 - 1804年 徳川家康の墓を築く 徳川家康の文化を継承する!!
 - 1857年 江戸幕府に代って明治政府を設立

しかけ③ 教師による切り返しの発問や構造的な板書で、より多角的な立場から考えさせる

民衆の不满といった視点のみから吉宗の政策を評価する子どもに対しては「吉宗の目的は幕府をたて直すことでしょ？それに対して自らも質素・儉約に取り組んでいるのにすぐれたリーダーではないの？」という問いを投げかける。また、幕府による支配を肯定的に捉える子どもに対しては、「では、国を守るためにならそこで暮らす人々の幸せは実現されなくてもいいの？」という問いを投げかける。さらに板書によって、「幕府があるから民衆が安定した生活を過ごすことができるのか？」それとも「民衆の幸せ（幕府に対する不満が少ない）があるから幕府が安定するのか？」を構造的に示すことで、より多角的な視点から江戸幕府の政治について考察できると考えた。

しかけ④ 授業全体をとおして、学びにどのような変化があったかを示させる

学習問題に対して、再度自分の考えを意思表示させる時間を設定し、自分の学びの変容や深まりに気付かせるようにする。自分の学びを俯瞰的に捉えさせることで、省察性を働かせながら学びを捉え直すことができると考えた。また、「1人では、納得いく答えが出せなかったけど、みんなとのかかわりを通して、自分の考えは深まっていくものなのだ」という学び方に対しての振り返りにもつながると考えた。

☆ 「教師による授業の構想」

◎ 「教師による授業構想」

本時では、「歴史から学ぶ」をテーマに幕府のピンチにおける政治について多角的な立場から考え、自分の考えをもつことを学習のゴールと設定した。期待する子どもの記述（振り返り）としては、「吉宗の政策にもメリットとデメリットがあって吉宗がすぐれたリーダーかどうか判断するのはすごく難しかった。ピンチだから、ある程度節約することも大切だけどそれでは民衆の不満が高まってしまう。こういう政策は、そのあたりのバランスを考えることがすごく大切だと思った。そしてこれは今のコロナ対策にもいえることだと思った」「今回の授業をとおして学んだことはやっぱり、いろいろな物事は簡単には判断できないということだ。確かにそこで暮らす人々が我慢ばかりしてはよい時代とは言えないけれど、ピンチのときにはそれも仕方がないことなのかもしれないと思った。安定した国があるから人は幸せでいれるけど、その安定した国をつくるために人が幸せになれないこともある。ピンチのときの政治ってすごく難しいと思う。今はコロナですごく日本もピンチだから、どういう政策がいいのか考えたいと思った」等があげられる。

本学級の子どもたちは、民衆側の立場に立って、歴史的な事象を捉えることが多々ある。やはり、民衆の気持ちは自分自身を重ね合わせ、想像することが容易であるからではないだろうか。吉宗の功績について調べる学習においても、財政を立て直したことよりも目安箱を設置し、民衆の意見を聞いたことに心を動かされた子どもが多かった。（吉宗の功績についてのまとめでは、クラスの約7割が吉宗はこれまで学習してきた将軍やリーダーに比べ民衆のことをすごく大切にしているといった趣旨の振り返りを書いている。）このような子どもの実態から、授業は、「吉宗の政策は民衆のためであったかどうか？」が対話の中心になると予想した。「質素・節約や増税が厳しすぎるから民衆のためではない。」「でも、目安箱を設置して、民衆の声も大切にしている。」このような考え方が、すぐれたリーダーかどうかの価値判断の中心になるであろう。しかし、吉宗の政治の一番の目的は、民衆を満足させることではなく、幕府の財政を立て直すことである。そこで、「吉宗の政治の一番の目的は民衆を幸せにすることだったの？」という問いを投げかける。吉宗の政策の目的が財政の立て直しであることに気付いた子どもたちは、「民衆のためではなくて、やっぱり幕府のことが一番ってなんだか悲しい」といった思いを語るであろう。そこで、「幕府を守ることって民衆にとってよいことではないの？」といった問いを投げかける。本時までに幕府による政治が社会の安定につながり文化や学問が発展してきたことを理解している子どもたちからは「そうとも言い切れない。安定した政権があったから、民衆の幸せがあったのかもしれない」「でもやっぱり、いろんな決め事は幕府が中心で決めている。本当に大切なことは、民衆たちが自分たちの手でリーダーを決めることかもしれない。だから今、選挙があるのだ。」といった発言を期待したい。

最後に「全体の安定があってこそその民衆の幸せか」「民衆の幸せがあるから全体が安定するのか」に対話を焦点化し、多角的な視点から江戸時代を考えさせたい。

民衆の立場からのみで
吉宗の政治を価値・判断

吉宗の政治の目的を確認
幕府の財政の立て直し

多角的な立場から
吉宗の政治を価値・判断

☆「実際の子どもの学び」

◎「実際の子どもの学び」

教師による授業構想に反して、子どもたちは授業の前半から、吉宗の政治の一番の目的（財政を立て直し）を踏まえた上で自分の考えを述べている。（*授業動画12分16秒～13分02秒参照）本児はここまで、歴史的事象の多くを民衆の立場から捉えることが多かった子どもである。そのため、教師側の意図としては、「吉宗は民衆を大切にしていると思っていたけど、実際にはそうではなかったと知ってびっくりした。吉宗はすぐれたリーダーではないのかもしれない。」等の趣旨の発言を期待していた。しかし実際は「宗春は民衆に自由度の高い生活をさせていたから最高のリーダーと呼ばれていたのだろうけど、私は吉宗の方が正しいと思ってるんだよ。だってこれは江戸（幕府）のためやん？だからやっぱり日本を守る吉宗の方が正しいと思います。」と発言している。民衆の立場の意見を支えるための根拠となるべき宗春の資料が、教師の意図とはちがう形で作用され「国のピンチでみんながひとつにならなければならないのに、勝手な事をする人物」という理解につながっている。スケール図に意思表示する段階では、真ん中に置いた女子児童が「だってNOやったら民衆にとって悪いやんか。けど、YESやったら自分たちの日本がやばい状態やから、どっちをとったらいいかわからん。」と発言している。（*授業動画18分03秒～18分23秒参照）この女子児童の発言からもすでに「全体を守るか」「個の自由を保障するか」の中で価値判断することができていることがわかる。その後に発言した男子児童は、民衆の視点から自分の生活と関連付けて当時の民衆の生活について話す場面が見られるものの、子どもたちの思考を揺さぶるまでには至っていない。グループで話し合いが行われた後も、男子児童が「どんどんお金を使っていったら国が貧乏になるやん。そうなっても尾張での生活（民衆の自由度が高い生活）に慣れすぎて生活ができなくなる。」といった発言をし、多くの共感を得ている。（*38分20秒～38分50秒）授業後、ある女子児童が本時の授業について自分の考えを伝えにくる場面があった。（女子児童は吉宗をすぐれたリーダーだと評価している）その女子児童に対して「幕府のピンチのために財政を立てなおした吉宗はやっぱり、すぐれたリーダーといえるね。ところで今の日本もコロナで国がピンチだから税金を上げる政策には賛成？」と問うてみた。「それはだめ。自分たちの生活が苦しくなるから。」との返事が返ってきた。このことから分かるように歴史的事象を自分事として捉えさせることはできなかったようである。

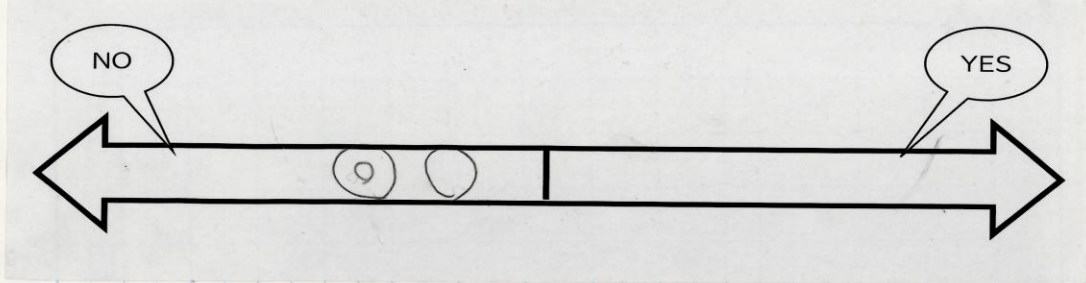
本時の実践では、今の日本の状況と歴史をつなげて考えている様子が見ることができた。（*授業動画10分48秒～11分35秒等参照）しかし、江戸時代の日本（身分制によって民衆の生活が制限されている時代）と今の日本（国民主権によって国民の政治参加が保障されている時代）が同じ仕組みであるかのように捉え、対話する子どもの姿も見られた。もちろん、国がピンチのときは、それを乗り越えるために国民全体で協力しようとする姿は大切である。しかし、江戸時代における国とは、あくまで徳川による政権である。社会科教員としては「国のピンチを乗り越えるための政策は、国民に主権がある上で決定されるべきである」といった理解にまでつなげていきたい。本時では、子どもたちの理解をそのレベルまで到達させることはできなかったが、今後の授業を通して、「やっぱり国民主権はすごく大切な権利なんだ。長い歴史をかけて手にしたこの権利を積極的に活かしていきたい。」といった心情を育ませていきたい。

多角的な立場から
吉宗の政治を価値・判断

宗春の資料が教師の意図とは
違う形で影響

歴史的事象を自分事で
捉えきれない姿も

10/21 吉宗の政治 学習問題 吉宗は本当に死“ト”リ“ダ”といえるのだろうか?

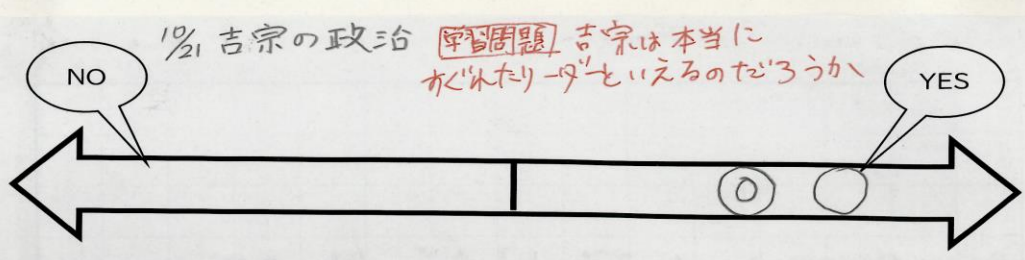


ぼくは見方を変える事ですぐれたリーダーといえるかすぐれたリーダーといえるか変わってくると思った。理由は民衆から見たらお祭りや楽しい事をやる宗春の政治だと思ふし、幕府の安定を見るなら、倭約などをする吉宗の政治だと思ふからだ。ただ、ぼくは民衆があつての幕府だと思ふから、すぐれたリーダーとはいえないと思ふ。理由は民衆が反乱や一揆をおこすと幕府は安定しないと思ふし、すぐれたリーダーは幕府も安定もてるし、民衆も楽しかったり、幕府の政治になつてくしたりしている人だと思ふからだ。

い3人は視点から考え、しかし自分の考えをもつてか

で受け!! 社会には様々な立場の人が、視点から考えて生きている

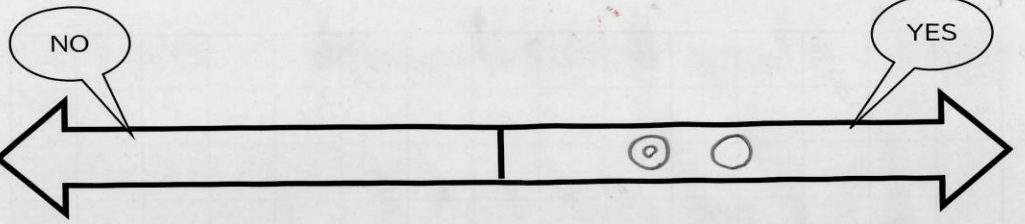
「ぼくは見方を変えることですぐれたリーダーといえるかが変わってくると思った。」といった記述から、本児童に社会的(歴史的)事象を多角的な立場から考える視点が身に付き始めていることが窺える。また、「僕は民衆があつての幕府だと思ふからすぐれたリーダーではないと思ふ。」という表現からもわかる通り、最後は民衆の視点から吉宗のリーダー性を評価している。ただ、この判断は、「民衆の生活にゆとりがなかったから」といった理由ではなく、民衆の不満が幕府の崩壊を招く要因になりえると考えてのことである。吉宗の政治の目的を理解した上で、吉宗のリーダー性を自分なりに評価することができている。しかし、「すぐれたリーダーは幕府も安定するし(させるし)、民衆も楽しかったり、幕府の政治になつてくしたりしている人だと思ふからだ。」という記述からは、その実現が困難であつた当時の社会的情勢への理解は不十分であることがわかる。



今日、「吉宗は本当にすぐれたリーダーか」といえるのだろうか。」を問題にしてきて思ったことは、すぐれたリーダーか、すぐれていないリーダーか決めるのは、すごくおもしろいと言うことです。理由は、みんな立場がちがうからです。たとえば、民衆から見ると、「ダメがゆくて、目安箱に意見を入れても、向もしてくれないから、民衆から見ると、あまりすぐれていないけれど、武士からすると、ほかの将軍には、ない知識があることを知っているから、すぐれているリーダーだと思います。だから、いろいろな立場があるから、吉宗が、本当にすぐれているリーダーかどうかは、すごく決めづら

ここで、学習問題、たまたま、生活に、この状況、だる、石だれ! 別に立場からいって見ると、全然sp!!

「すぐれたリーダーかすぐれていないリーダーか決めるのはすごく難しいということです。理由はみんな立場がちがうからです。」といった記述からは、前ページの子ども同様、多角的な視点から社会的(歴史的)事象を捉える力が養われてきていると判断できそうである。また、「民衆から見ると」「武士からすると」という記述から、本児が吉宗のリーダー性を多角的な立場から判断していることがわかる。ただ、このように多角的な立場からの思考にもかかわらず、本児は授業の前後ともに吉宗のリーダー性を高く評価している。振り返りを書かせる活動を通して、その判断が多角的な思考を行った上での判断なのか、はたまた一面的な見方をした判断なのかがより明確になる。「多角的な立場から考えたにもかかわらず、リーダー性の評価には大きな変化は見られない。」という事実は、この振り返りには表れていない本児の「思い」を含んでいることが予想される。そこを問うていくことで、より省察性を働かせながら学びに向かっていく姿が期待できるだろう。



1/21 学習問題 吉宗は本当に求むたリーカー
 といふのた'うか?

ふり返り

おぼり吉宗は秀れたリーガーだ
 と思つた。最初はただ単に幕府の
 未来を思つて核約していったからYes
 の方だったけれど、~~Noの意見を聞いて~~
 宗春の考えもある意味正しい
 と思つた。でも、win winの関係が一
 番いいけれど、この場合は自分自
 身でも、win winにするのは難しい
 し、片方をとればもう片方を失う
 という難しい決断だと思つた。
 吉宗は幕府をとつて、宗春は民衆
 をとつたから宗春は吉宗の考えに
 不満をもつたんだと思つた。でも
 民衆をとつてしまふと、今はいい
 けれど、後々敗政がなくなつてき
 て、最後には幕府は滅んでしまふ

→ かつと歴史の復好想は上で考へて深めることが
 できた!!

核約

月 日 No.

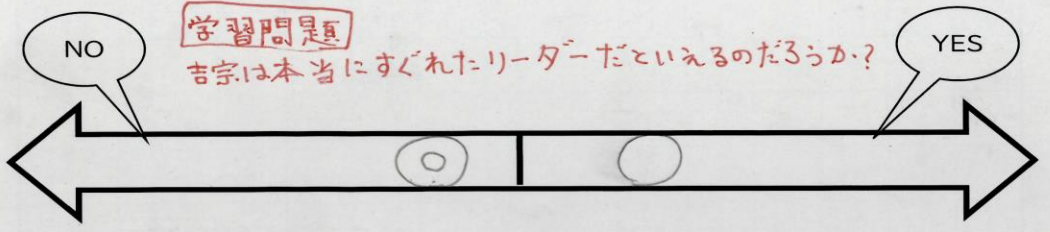
から、だめだと思つた。でも、民
 衆からすれば、宗春は民衆の気持ち
 ちがわかる最高のリーガーだ
 と思つた。逆に、幕府の未来をとつ
 た吉宗は、核約・核約と民衆にい
 つてしまふ、民衆は楽しみをしら
 べなおかつ下がらない税のせいで
 不満をもつ民衆が多くなつたと思
 つた。それと、目安箱にも辛いな
 どの声があつても、幕府の未来の
 ために無視せざるをえなかつたん
 だと思つた。

→ なるほど!! その立場立場におつて、いふ人は考えや
 ちがふ!!

「意見を聞いて、宗春の意見もある意味正しい
 と思つた」という記述からは、本児が違う考
 えをも他者との対話をとおして、自分の考えを
 を広げた(吉宗の政治を多角的な視点から考
 察した)ことがわかる。また、「片方をとればもう
 片方を失うという難しい決断だと思つた。」
 という記述からは、当時の社会的状況を理解
 した上で、価値判断を行っていることがわかる。

吉宗の政治

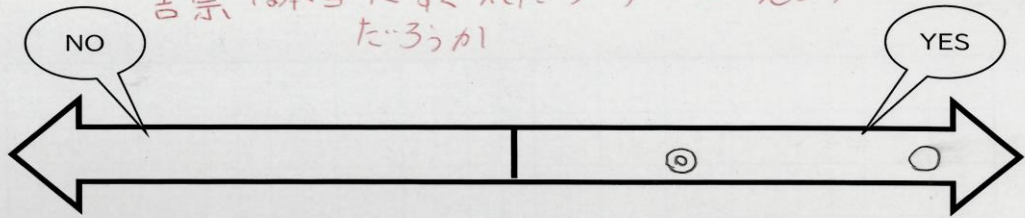
10月 21 日



私は始め吉宗はすぐれたリーダー
 だと思えずと思、ていました。な
 ぜなら、1/19の吉宗は〇〇なリーダ
 ーでかいたように吉宗は診療所を
 民衆の要望に答えてつく、をあげ
 たりだとか民衆によりろ、ていた
 からです。だから、少しきつい生活
 だ、たくらいて野暮將軍とか要望
 に答えてくれたことと忘れたのかと
 思いました。
 ですが、班での話し合いをした後には
 YESよりのNOになりました。
 なぜなら、もし私がそのときの民
 衆だ、たら前までる、つうに日常で
 おこな、ていたことがしたらダメ
 というれ、私でいう アイドル名 とい

う楽しみもうばわれ、ただ、『^{たのしみ}検納^{たのしみ}』
 に取り組めだなんて、「なんであ
 なたたちのために税を決ま、た分
 とられるから貧乏みたいな生活
 送らなき、ならないの、てな、て、
 じまうの分かるからです。
 ですが、かんせんたNOというわ
 けではありません。なぜなら、吉
 宗本人も同じような生活を送って
 いたし、診療所なども民衆の要望に
 答えてつく、て、いるし、これも自分
 のためではないからです。それに、
 自分も同じような生活をし、しんど
 か、たと思、うけど、目安箱に「しんど
 い」とかかれても、この生活をかえな
 いほどの正義感があると思、うから
 です。 → 自分言いたことと継続したということですか!!
 今日の授業で、みんなに好かれた、
 辛せな政治をしても国は治まらな
 いし治安はよくならな、からそん
 なに吉宗はまちが、てな、か、たか
 らとも思、いました。 → どのリーダーか、え、どの
 かも... ます、す、す、す!!
 (お)とあ、あ、あ、goodです!!

吉宗は本当にすぐれたリーダーといえるの
だろうか



ふり返り

私ははじめ、吉宗が民衆思いで、
欠点のないすぐれたリーダーだと思
っていました。けれども人によ
ってその感じ方が違うのかなと思
いました。なぜなら、今とい
て「いまは、国全体で協力して、
コロナを減らすべき」と考える人
もいれば、「国を元気にして、こ
んよりとしたつまらない世の中を
Go to キャンペーンで変えよう」と考
える人もいます。けれども
私はこういう時代だからこそ、みん
なで協力して乗りこえるのが大切
なんじゃないかなと思いました。
世の中、ていうのは、対立した
ら、すぐれたリーダー同士の戦い
になると思います。人によ

今と
おかげで
考えが
違う
って
ね!!

んなことがすぐれているという感
じ方が違うと思、たからです。宗
春がすぐれたリーダーと感じる人
もいれば、吉宗がすぐれたリーダ
ー感じる人もいます。そ
こで、違う視点から見ることで
きる、自分と違う意見をも、た人
と話し合うことで世の中がもう一
つランクアップすると思、ました。

→ 大抵石だね!! 石を打つおかげを認め合うこと!!
いろんない立場が考えが
歴史が一番学んでいべきこと
かもいけません!!

吉宗が将軍になった頃のピンチと現在の社会のピンチを関連付け、様々な立場からの考えがあることを理解した上で、自分の考えをもつことができている。また、「自分と違う意見をもった人と話し合うことで世の中がもう一つランクアップすると思、ました。」という表現は、まさに歴史授業を通して授業者がめざす公民としての資質・能力が育まれている姿といえる。

研究発表会（社会）にご参加いただきありがとうございます。
本日（10月31日（土））は、よろしく願いいたします。

